

# 変化に対応した公共工事を

## 長野市空衛協会 市と懇談会

長野市空衛設備協会（松澤吉剛会長）は12日、ホテル国際21で、市関係部局との懇談会を開催した。懇談会は昨年からは始まり今回で2回目となる。市発注の公共工事を通じて行政と施工業者が理解を深め、より発展的な事業となること

を目的としている。

冒頭のあいさつで松澤会長は「互いに課題を把握し、向き合うきっかけにしたい。建設業界を取り巻く環境は、技能者・技術者の不足、長時間労働の是正、資材・燃料の高騰など厳しさが増し、変化に



対応しきれていない。長野市の公共事業の変化は他にも波及するので、進化した公共事業のスタイルを長野市から発信をお願いしたい」と話し、前向きで実りのある話し合いを期待した＝写真。

市建設部の堀内敏明技幹兼建設課長は「2019年の台風19号災害時には住宅の応急復旧工事などの協力を感謝している。協会と課題解決のために継続して取り組んでいきたい」と感謝を述べたうえで、「来年度から週休2日工事が本格実施されるが、施工者や施設管理者の計画工程の調整が重要で、適切な工期や予定価格の設定、ICTの活用など合理化を進めることが必要だ」とあいさつ。

市側から「2024年度の週休2日工事について」の情報提供の説明が行われ、その後、協会と市との懇談会が非公開で開かれ、入札制度、施工に関する各種検査についてなどの話し合いが行われた。

# 下水道の最新技術を学ぶ

## 長野市下水道管理協 自治体と勉強会



一般社団法人長野市下水道管理業協会（和田俊明会長）は13日、長野市の東部浄化センターで自治体職員を交え、下水道に関する勉強会を開催した。今回は市上下水道局下水道整備課の職員に加え、北信地区の自治体も参加し、約30人が最新技術を学んだ。

午前中に行われた講習では、高千穂産業（名古屋市）が有

害ガス検知器の種類及び取り扱い方法、日之出水道機器（福岡市）が次世代型マンホール鉄蓋のプレート式デジタルマンホールについてそれぞれ講演を行った。

午後からは午前中の講習を踏まえ、東部浄化センターにある下水道管で作業を想定した実演を行った。最初に入出時の作業として有害ガス検知

器で酸素量を測定してから作業を開始。管渠内を高圧洗浄した後、自走式テレビカメラの機械を下水道管内を走らせる実演をした。参加者は下水道内部が鮮明に映されたモニターに注目していた。

次に歴代のマンホール鉄蓋の特徴や違いの説明がされた。最新型となる次世代型マンホール鉄蓋は、「耐がたつき性」や「耐荷重性」に優れ、開閉のし易さに特徴があることから大型車両が通行する道路での使用に適している。実験では100kgの荷重をかけた鉄柱を次世代型と現行型のマンホール鉄蓋に落としたところ、次世代型では容易に開閉できた＝写真。現行型との違いが明白な結果に参加者はその違いに驚いていた。

協会の永井秀明副会長（アースワーク社長）は「勉強会は啓発活動として開催しているが、今年は北信の職員の参加もあり、活動の輪を広げていきたい。日頃の業務の中で聞きにくいこともこの勉強会で学んでほしい」と開催の意義を話した。